

vol.  
**60**  
2024  
spring



Osaka Kyoiku  
University  
Public Information  
Magazine

大阪教育大学広報誌

# Ten You

天遊

**Students Now!**

**卒業生CATCH!**

**ラボ訪問**

**附属学校園ウォッチ**

**今号の表紙学生**

**TOPICS**

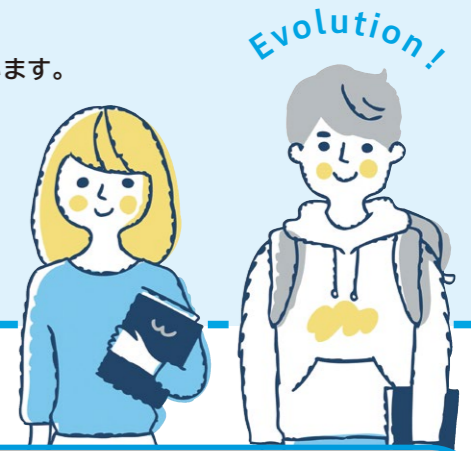


特集

大阪教育大学は進化します  
**教員養成課程を  
改組!**

# 大阪教育大学は進化します！ 教員養成課程を改組！

大阪教育大学は西日本最大の教員養成大学として、毎年数多くの教員を輩出しています。しかし、グローバル化や情報化が進むなど変化の激しい時代となり、学校教員に求められることが変わってきていることを知っていますか？  
これからの学校教員に求められる資質・能力を備えた教員を養成するために大阪教育大学がどのようなことに取り組んでいるのかについてご紹介します！



## これからの学校教員に求められること

- 1 教育のデジタル化や新たなニーズへの対応
- 2 自律的に新しい知識・技能を身につけること
- 3 個別最適・協働的な学びの充実を通じた、子どもの主体的な学びの支援



## 大阪教育大学ではどう対応するの？

令和4年度より「ダイバーシティ大阪の諸課題に  
え、学習者の学びに寄り添う教師の育成」をテーマ  
に、先導的な教員養成プログラムや教職科目の研究・  
開発、成果の展開等に向けた取組を進めています。



## 具体的には何をやるの？

令和6年4月に教員養成課程を改組します！

改組  
って？

組織を改革して新たなものに変えていくこと！

## なぜ改組するの？

令和4年3月に文部科学省から教員養成フ  
ラッグシップ大学の指定を受け、先導的・革  
新的な教員養成カリキュラムを一体的に展開  
し、学校種を超えて子どもの発達を踏まえた  
学校教育全体を俯瞰した教師に必要な資質・  
能力を育成するためです。



教員養成  
フラッグシップ  
大学って？

文部科学省が新たに創設した制度で、「令和の  
日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、  
教員養成の在り方自体を変革していくためのけん  
引役としての役割を果たす大学のこと！

## 改組のポイント！

ポイント  
1

### 先導的・革新的な 教員養成カリキュラムを展開

学校種を超えて子どもの発達を踏まえた学校教育  
全体を俯瞰することができる教師を育成するため、  
フラッグシップ大学特例を適用した先導的・革新的  
な教員養成カリキュラムを展開！

ポイント  
2

### 「次世代教育専攻」を新設

学習者を中心とした個別最適な学びを通じて、多様  
な児童生徒一人ひとりに寄り添う力やICTを活用  
した指導力等を身につけ、次世代の学校教育をけん  
引できる教員を養成する「次世代教育専攻」を新た  
に設置！

ポイント  
3

### 複数免許を取得しやすい カリキュラム

教科の専門や教科横断を見据えた知識・技能を修  
得した教員を養成する「教科教育専攻」を新たに設  
置し、各コースにおいて小学校および中学校（一部  
高等学校）免許状の取得を卒業要件とし、中学校他  
教科・高等学校・特別支援学校の教員免許状の取得  
も可能！

## 【令和6年度改組の概要】

専攻	コース	募集 人員	取得できる教員免許状		
			卒業要件を満たすことにより 取得できる教員免許状	卒業要件を満たし、さらに所定の単位を 履修することにより取得できる教員免許状	取得をめざすことのできる教員免許状※
幼小教育専攻	幼児教育コース	15	幼稚園教諭一種	小学校教諭一種	
	小学校教育コース	45	小学校教諭一種	幼稚園教諭一種	中学校教諭一種または二種(技術・家庭以外) 高等学校教諭一種(工業・家庭・書道以外) 特別支援学校教諭一種(知・肢・病)
次世代教育専攻	教育探究コース	40	小学校教諭一種	中学校教諭一種または二種 (国語・英語・社会から選択) 高等学校教諭一種 (国語・英語・[地理歴史・公民]・情報から選択)	中学校教諭一種または二種(左記で選択した以外の教科) 高等学校教諭一種(左記で選択した以外の教科) 特別支援学校教諭一種(知・肢・病)
	ICT教育コース	①	① 高等学校教諭一種(情報) 小学校教諭一種		中学校教諭一種または二種 高等学校教諭一種 特別支援学校教諭一種(知・肢・病)
		②	② 高等学校教諭一種(情報) 中学校教諭一種(数学) 高等学校教諭一種(数学)		小学校教諭一種または二種 中学校教諭一種または二種(左記で選択した以外の教科) 高等学校教諭一種(左記で選択した以外の教科) 特別支援学校教諭一種(知・肢・病)
教科教育専攻	国語教育コース	45	小学校教諭一種 中学校教諭一種(国語)	高等学校教諭一種(国語)	中学校教諭一種または二種 (左記の各コースで選択した以外の教科) 高等学校教諭一種 (左記の各コースで選択した以外の教科) 特別支援学校教諭一種(知・肢・病)
	英語教育コース	25	小学校教諭一種 中学校教諭一種(英語)	高等学校教諭一種(英語)	
	社会科教育コース	40	小学校教諭一種 中学校教諭一種(社会)	高等学校教諭一種(地理歴史・公民)	
	数学教育コース	45	小学校教諭一種 中学校教諭一種(数学)	高等学校教諭一種(数学)	
	理科教育コース	50	小学校教諭一種 中学校教諭一種(理科)	高等学校教諭一種(理科)	
	技術教育コース	10	小学校教諭一種 中学校教諭一種(技術)	高等学校教諭一種(工業)	
	家政教育コース	15	小学校教諭一種 中学校教諭一種(家庭)	高等学校教諭一種(家庭)	
	保健体育コース	40	小学校教諭一種 中学校教諭一種(保健体育)	高等学校教諭一種(保健体育)	
	音楽教育コース	20	小学校教諭一種 中学校教諭一種(音楽)	高等学校教諭一種(音楽)	
	美術・ 書道教育 コース	25	美術分野 小学校教諭一種 中学校教諭一種(美術)	高等学校教諭一種(美術)	
書道分野 小学校教諭一種 高等学校教諭一種(書道)					
特別支援教育専攻		45	小学校教諭一種 特別支援学校教諭一種(視・聴・知・肢・病)		中学校教諭一種または二種 高等学校教諭一種
小学校教育(夜間)5年専攻		40	小学校教諭一種		
	3年次編入学	(25)			

※免許状の種類によっては、時間割や受講人数、成績等の条件により取得できない場合があります。  
なお、これらの免許状の取得に必要な科目は、すべて柏原キャンパスにて開講予定です。



教員養成課程長  
土山 和久 教授

## Voice

現代の教育は、一人ひとりの子どもたちの多様な個性を大切にすることをめざしています。これに連動するかたちで、令和6年度にリニューアルする教員養成課程は「ダイバーシティ(多様性)教育」を担う将来の教師の養成に大きく舵を切ります。教員養成課程で学ぶ皆さんには、子どもたちが見せる多様性に幅広く対応するために、それを受け止める“多様性マインド”を身につけ、教育活動に生かす意識を強くもっていただきたいと思います。それによって、一人ひとりの子どもたちの個性が輝く教育が立ち上がり始めますし、なにより、教職に就く皆さんの個性も輝き始めます。

改組の  
詳細はこちら



## 困窮する子どもを一人でも多く助けたい

# Students Now!

スチューデント ナウ

初等教育教員養成課程  
小学校教育専攻夜間5年コース 3回生

谷口 和花菜 さん (茨城県立土浦第二高等学校卒)

谷口和花菜さんは学業のかたわら、大学生が運営する募金運動「あしなが学生募金」の事務局長として、全国の事務局長と協力しながら募金ボランティアの取りまとめや事務組織の運営、困窮する子どもたちの現状を広く伝えて支援を訴える啓発活動などに精力的に取り組んでいます。年間延べ1万人規模のボランティアが参加する全国組織のリーダーになったのは、意外なきっかけからでした。

「あしなが育英会の奨学生は、街頭募金に必ず参加することになっています。それで1回生の9月にあった説明会に出席したんですが、募金だと思っていたのが実は勘違いで、事務局の説明会だったんです。そこで先輩学生に誘われて事務局に入り、翌2月には兵庫東ブロックの代表になります。その半年後、関西エリアの代表が任期途中で辞めることになり、ブロック代表を続けたままエリア代表を兼任。さらにそこから、前任の事務局長に頼み込まれ、入局から1年半足らずの2023年2月、全国の学生ボランティアの代表に就任したのです。

怒涛のような1年半を振り返るときも、常に明るく笑いの絶えない谷口さんですが、その心の根底には、「困っている子どもを助けたい」というぶれない軸があります。それは自身の育った環境が大きく影響していました。「中学3年生のときに母親を亡くし、高校1年生で父親とも別れて、当時大学生の姉と2人きりでどうやって生活したらいいのかもわからない状態になりました。そのときにたくさんの人に助けてもらったから、私も困っている子がいたら助けたい、力になりたいという思いが常にあります」

事務局長にならないかと頼まれたときにも、考えたのは「子どもを助ける」という視点からでした。「半年しかできなかったエリア代表の仕事をもう1年やりたい気持ちもありましたが、全国に行っても、子どもたちを救うためにどうするか考えるという根本の部分は変わらないと思いました。それに、来年もこんな機会が来るとは限らない。それなら今がんばってみようかなと、引き受けることにしました」

加えて、4月からはこども家庭庁に設置されたこども家庭審議会委員に任じられました。あしなが育英会奨学生の代表として、苦しい生活を送る遺児家庭の当事者の意見を国に伝える役目を担います。「遺児の状況を多くの人に知ってもらって、みんながやりたいことに挑戦できる、明るく生きられる社会に

なっていきたい。そのために当事者として、『こういう支援が必要なんです』とか『こういうときに遺児は困っています』ということ伝えていきたい」と意気込みます。

夜間コースに通う谷口さんの日常は、昼間はアルバイトと事務局の活動、夜は授業と多忙です。しかしそんな中でも、事務局のミーティングの合間に仲間とおしゃべりしたり、同じコースの仲の良い友人とお茶やご飯に出かけたりと、大学生らしい時間も楽しんでいます。毎年新作が公開される『名探偵コナン』の映画も楽しみ。さらには小学生の頃に始めた琴をまた弾きたいという意欲もわいてきて、やりたいことは尽きません。

心に確固たる芯を持ちながらも気負いすぎることなく、軽やかに自分らしく生きるその姿勢が、多くの人を惹きつけ、頼りにされる理由なのかもしれません。

(2023年5月取材)

## 卒業生 CATCH!

“挑戦”を通して生徒たちに勇気を届けたい



大阪市立横堤中学校  
こいけ ゆうま  
小池 優真  
学校教育教員養成課程  
中等教育専攻 技術教育コース 2021年3月卒



### 大教大に入学した理由

ボディビルダーとしても活躍する異色の中学校教員、小池優真さん。本学を志望したのは、中学時代のちょっとした勘違いが発端だったと笑います。「中学の頃から、国立の大学に行きたいという希望がありました。高校進学を考える時期に指定校推薦の話聞いたことから、自分の中で言葉だけが一人歩きしてしまって、指定校推薦で国立大学にも行けると思ったんです。そこで、進学希望者が少なく推薦をもらいやすいと考え、工業高校に入学。ところが3年生になって初めて、指定校推薦は私立大しかないとなりました。「今から受験勉強を始めても厳しいしどうしよう」と困っていたら、進路担当の先生が、センター試験を課さない推薦のことを教えてくれました。いくつかの候補の中に大教大もあって、オープンキャンパスに参加してみたところ、先輩たちが優しく、大学の雰囲気もすごく良かったので、ここで大学生生活を頑張ってみようと思ったんです」

### 大学時代の思い出

中学から柔道を始め、大学でも柔道部だった小池さんは、大学生活も部活動が一番思い出深いといいます。「部活の内容は学生主体で考えさせてくれたので、伸び伸びと活動できました。それが成長する力にもなったのかなと思います。入学当初はなかなか勝てなかったチームが全国

大会に出場するなど躍進し、小池さん自身も、大阪学生柔道体重別大会で優勝という輝かしい成績を残しました。「柔道を始めてからずっと優勝しなかったのがなかったので、すごく嬉しかったです。大阪のいろんな学生と戦って勝ち上がったことはとても大きな経験でした」

### ボディビルへの挑戦

「トレーニング自体は高校3年生の時、たまたま家の近くにボディビルのジムができたのがきっかけで始めました」という小池さん。多忙な教員という仕事にありながら大会に出るようになった背景には、こんな思いがありました。「本格的にボディビルを始めたのは、何か一つのことに“挑戦”する姿を生徒たちに見せたかったから。学校では生徒たちに『勉強や試験を頑張れ』『部活を頑張れ』などと言いますが、それを言う教師自身が何も頑張っていなかったら、説得力がないのでは感じていました。そこで、教師が自ら頑張る姿を見せることで、生徒たちに『自分も頑張ろう』と思ってもらえたらと考えました。生徒たちにも“挑戦”することの大切さを熱く語り、「一緒に挑戦していこう!」と鼓舞しています。

### 仕事とトレーニングの両立

教師の仕事とトレーニングの両立について聞くと、「本当に大変です」と思わず声が入りま

す。仕事を終えてから2、3時間ほど筋トレをこなし、減量期にはさらに朝4時半に起きて1時間ジムで歩いてから出勤しているそう。そんなハードな生活を続けられるのは、他ならぬ生徒たちのおかげだといいます。「トレーニングは大変ですが、学校に来て生徒たちと関わっていると、不思議なくらい元気が出てくるんです。最初は自分の“挑戦”を通して生徒たちに頑張ってもらいたいという気持ちでしたが、生徒たちが頑張る姿を見せてくれて、逆に力をもらっていることをすごく実感しています。そんな生徒たちに何かを還元したいという思いが、小池さんの心に火をつけ、突き動かす原動力となっています。

### これからの目標

今年は3年生を担任していることから、「一番大きいのは生徒たちの進路です。一人ひとりが納得のいく進路をつかむためのサポートをすること。これが最大の目標です」と力を込めます。そのうえで、ボディビルの目標は、「まずは大阪大会での優勝。さらに今年には日本大会にも出場するので、そこで上位に入ってアジア選手権の選考対象に選ばれたい」。生徒たちへの熱い気持ちが、小池さんの“挑戦”を支えています。

(2023年7月取材)



# LAB

ラボ訪問

教師自身が  
授業を楽しみ、  
生徒が楽しめる  
授業づくりを

## Q 大阪府のご出身ですが、なぜ京都の教員に？

A ChangeはChance。大阪で大学院まで進み、卒業と同時に京都の教員になりました。大阪を出ようと思ったのは「新しい場所での人生は楽しそう！」という気持ちが強くなったからです。就職は新しい一歩を踏み出すチャンスだと思っていました。生まれ育った場所にいれば快適ですが、ずっとそのままでは変化がないかなと。ちょうど大学院の恩師が東京に戻るといって、京都の教員採用試験を受けることに決めました。11年間、京都の高校と中学の英語科教員として働いた後、さらに変化を求めて茨城大学の教員になりました。

## Q 大阪に戻ろうと思った理由は？

A いつかは大阪に戻りたいという気持ちはあり、茨城大学で教員養成を担当していたので、大阪でも教員養成に携わりたいと考えていました。そんな折、2020年から小学校での英語が必修化され、本学初等教育部門の教員募集のタイミングもあつたので、これはと思って応募しました。中学・高校の現場経験があり、大学教員として小学校教育にも携わってきたので、まだ専門家が少ない小学校英語教育という領域で力を発揮できるのではないかと考えました。

## Q 現在の研究内容は？

A ICTを活用した英語のスピーキング授業です。きっかけは、英語教育を推進している中高一貫校に赴任した際、当時としてはかなり先駆的なオンラインによる英語教育の取り組みの担当になったことでした。生徒全員に一人ずつ講師がつき、タブレット端末を通して一対一で英会話をするので、グループ交流や全体での発表ではなかなか発言しづらい生徒も思い切って話せました。また、オンライン



## 多文化教育系 (初等教育部門)

小林 翔 特任准教授  
SHO KOBAYASHI



なので実際に講師を招いたり会場を用意したりする必要がなく、授業にも組み込みやすかったです。これは良い手法かもしれないと考え、授業実践と組み合わせ研究を始めました。ただ、やはり継続して毎時間講師を何十人も集めるのは簡単ではないですし、一対一の会話だけが全てではありません。そこで現在は、例えば日本と海外の教室をオンラインでつないでグループ対抗のコミュニケーションゲームをしたり、動画やコメントを共有できるアプリケーションなどを使って、リアルタイムの会話とはまた違う非同期型のコミュニケーションを図ったりと、さまざまなICTツールの活用方法とその効果を研究しています。

## Q 本学の学生の印象は？

A とても熱心に学んでいるという印象です。例えば模擬授業をするときも、いかに楽しく、英語が身につく授業を作るかということを一歩懸命考えているのが伝わってきます。私は日ごろから、「教師自身が楽しんでないと、児童は誰も聞いてくれないよ。仲間と意見を言い合いながら模擬授業を作るとことを楽しめたら、教師になってからも授業準備を楽しめるよ」と学生に話しています。先生が楽しんでいれば、それが児童にも伝わりますから。もちろん私自身も授業するのを楽しんでいます。

## Q 趣味や息抜きは？

A もともと体を動かすのが好きで、特にマリンスポーツが小学生の頃から大好きでした。スノーケリング、ダイビング、釣り、カヤックなどいろいろなスポーツをしてきて、今はもっぱらサーフィンです。スケートボードや、マウンテンバイクも小学生からやっていますし、ジムでの筋トレやランニングなども継続しています。食べることも好きなので、ピュウフェ巡りが大好きですね。海外ドラマを観ながらカフェラテを飲み、チョコレートを食べるのも至福のひと時です。



## Q 座右の銘はありますか？

A 「Where there is a will, there is a way.」という言葉が昔からずっと自分の中にあります。これは英語の有名なことわざで、日本語でいう「精神一到何事か成らざらん」という言葉に近いですね。もちろん解釈は人それぞれですが、「これがやりたい、がんばりたい、という強い気持ちを持って進んでいけば、きっと道は開ける」と私は信じています。

(2023年5月取材)

## 大阪教育大学附属学校園 WATCH

### 附属池田中学校が食育プログラム「食べて学ぶSDGs」を実施



附属池田中学校が、3年生の家庭科の授業で食育プログラム「食べて学ぶSDGs」を実施しました。これは、生徒たちが自身の食を改めて考えるとともに、食生活に付随する消費行動を通じた人々の協力が持続可能な社会の構築や社会の課題解決につながっていると気づくことを目的とするものです。プログラムは八千代エン지니어リング株式会社(東京都台東区)、大塚食品株式会社(大阪市中央区)、カゴメ株式会社(名古屋市中区)の協力を受け、6月の授業2回分を使って講義と調理実習を行いました。

第1回の講義では、普段食べている食材の生産と社会・環境問題とのつながりや世界的な人口増加による食糧不足への懸念、まだ食べられる食品が廃棄されるフードロスの問題に対する取り組みなどについて解説がありました。また、世界的に注目されている、植物性原料を使い肉や卵などに似せた加工食品「プラントベースフード」についても学びました。



第2回となる翌週の調理実習

では、大豆からスライスハムを再現した「ゼロミート ハムタイプ」と、白いんげん豆などから作られたスクランブルエッグ風食品「エバーエッグ」を使い、たまご&ハムサンドを作って試食しました。続いて、講義と実習を振り返るグループワークを行い、生徒たちは「初めてプラントベースフードを食べましたが、味も本物と変わらずおいしかったです。これなら食糧不足を補うだけでなく、食の多様性にも対応していると思いました」「プラントベースフードはまだまだおいしくないというイメージを持っていると思います。そのイメージを変えて、もっと使いやすくする環境づくりが必要だと思います」と発表しました。

家庭科を担当する大野真貴教諭は「今回の取り組みは、学校と企業が力を合わせ、社会とのつながりを重視しながら行いました。現実の社会との関わりの中で、子どもたちが一人ひとりの豊かな学びを実現していくことにつながると思います」と述べました。



### 附属平野五校園が『ひらのBOSAIキャラバン』で制作した「防災教育コンテンツ」を用いて防災教育を実施



附属平野五校園(附属幼稚園、附属平野小学校、附属平野中学校、附属高等学校平野校舎、附属特別支援学校)が、学校園・子ども・保護者で共同制作した「防災教育コンテンツ」(DVD)を活用した防災教育を行いました。これは、8月30日(水)～9月5日(火)の防災週間を迎えるにあたって実施したもので、教材の「防災教育コンテンツ」は、令和4年度の平野五校園防災協働事業『ひらのBOSAIキャラバン』(\*)において、『助けられる人から助かる人、そして助ける人へ』をテーマに制作したものです。

今年度、附属幼稚園では9月13日(水)に『楽しく学ぶ防災体験会』を実施し、附属特別支援学校では9月5日(火)に講話とともに「防災教育コンテンツ」を視聴し、クイズなどを通じた学習を行いました。附属平野小学校では学年別の避難訓練や「防災教育コンテンツ」の視聴を行いました。附属平野中学校では文化祭で生徒・保護者に対して、附属高等学校平野校舎では昼食時に生徒に対してDVDを視聴できる機会を設けました。

平野五校園防災協働事業に平成29年から協力しているNPO法人プラス・アーツ理事長の永田宏和氏は、「数年前に附属平野五校園のご縁をいただき『楽しく学ぶ防災教育』の取り組みについてお伝えしました。以来、幼稚園から高校まですべての学校園で、継続的に防災教育に取り組まれている様子を垣間見ることができて、心から感動しました」と感想を述べました。

\*平野五校園防災協働事業『ひらのBOSAIキャラバン』…附属平野五校園が、平成29年度より1年に1日防災について学ぶ日を設定し、平野五校園連合会(後援会組織)の協力を得ながら、さまざまな方法で行う防災教育のこと



## 混声合唱団「CHOR」ってこんなところ

今回の表紙に登場してもらったのは混声合唱団「CHOR(コール)」の学生たちサークルの活動内容やおすすめポイントを聞いてみました

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 音楽教育コース 2回生 奥城 未来さん

混声合唱団CHORでは1月の定期演奏会に向けて週2回練習をしています。合唱会や他大学の合唱団の方と歌うジョイントコンサートなど舞台上立つ機会が多いです。歌が大好きな人とたくさん交流することができるのはこのサークルの魅力だと思います。



## 混声合唱団「CHOR」

学校教育教員養成課程 中等教育専攻 家政教育コース 2回生 坂本 空美さん

同学年はもちろん、学年の壁を越えて先輩後輩関係なくアットホームな雰囲気でも活動しています。演奏会だけではなく、サークル内での楽しみ会なども全力で楽しむメンバーと毎週月曜日と土曜日に練習をしています。



最新のTOPICSは  
こちらからご覧ください



01

教員をめざす学生を対象とした  
デジタル教科書と電子黒板の  
体験会を開催



03

柔道部が国内外の大会で入賞!  
全国大会へ出場決定



02

大学祭「神霜祭」を開催



04

大阪府警察本部と連携した  
学校安全対策講義を実施



## 大阪教育大学基金への ご協力について

本学では財政基盤を長期的に支えるとともに、大学及び附属学校園などにおける学生等への支援、教育研究支援並びに国際交流や社会連携の推進等を図ることを目的に「大阪教育大学基金」を創設しています。この基金を活用して、教育研究、国際交流、社会連携、教育の高度化、スポーツ・芸術の推進、キャンパス環境整備などの事業を行っています。また本学は、2024年に創基150周年を迎えるにあたり、「大阪教育大学創基150周年記念事業」を展開します。これらの趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

一口  
1000円

クレジットカード等によるインターネットでの  
お手続きとなります

●基金の詳細は右のQRコードまたは下のURLへ

[https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/  
other/foundation/about.html](https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/other/foundation/about.html)



●ご協力いただける場合は上記ページの

「大学基金お申込み」ボタンからお手続きください

> 大学基金お申込み

F-REGI 寄付支払い ※所得税等の控除の対象です。

[https://kifu.f-regi.com/fc/contribute/osaka\\_kyoiku](https://kifu.f-regi.com/fc/contribute/osaka_kyoiku)

## アンケートに答えて 大教大オリジナルグッズをGET!



プレゼント応募締切

2024年 4月30日(火)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。  
※重複でのご応募は無効とさせていただきます。



アンケートは  
こちらから

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。



今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケート(QRコードを読み取ってご回答ください)にご協力いただいた方の中から、抽選で3名様に**大教大ボールペン&マフラータオルを一色ずつ(色は選べません)**進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、フォームにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。